

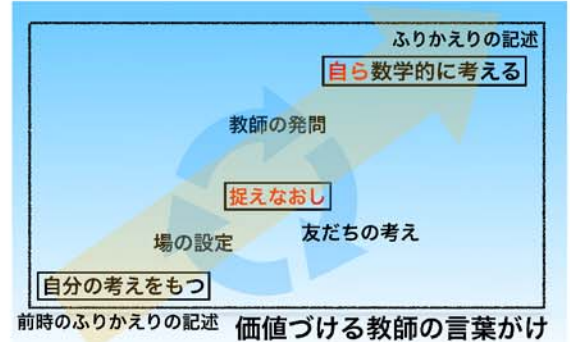


「捉えなおし」のできる子どもを育てる 学びのプロセス

「捉えなおし」とは

他者との関わりを通して、問題に対する自分の中にある既存の知識や経験から捉えた見方・考え方を再構成（変容・確立）すること

子どもは、授業の中で、一人で考え、ひとと考え、学びを深めていく。自分の考えを持ち（主体的実践力）、他者との関わりを通して（協働的実践力）、自分の考えたことを捉えなおし（創造的実践力）、学び続けていく。「やっぱりこの考え方でよかったんだな。」「そんな考え方もできるんだな。」「次は、友だちの考え方でやってみたいな。」という学びを通して、自分の考えを変容させたり確立したりできる子どもを育てるための学びのプロセスを実践した。



前時のふりかえりの記述 価値づける教師の言葉がけ

「捉えなおし」のできる子どもを育てる 学びのプロセス

一人一枚 ホワイトボードの活用



子どもたちは、問題と出会い、見通しをもち、めあてを共有する。その後、自力解決では、ノートではなくホワイトボードに考え方を表現する。

ホワイトボードの利点は、書きやすく、すぐに考えを書き直せることである。また、色を3色（黒・赤・青）使い、他者意識を持って、分かりやすく考えをまとめることができる。全員が同じようにできる環境が、一人ひとりの学びにつながる。また、考え方を発表した後に、黒板にそのまま貼ることができるので、子どもの文字で板書がつけられていく。さらに、場所を動かすことができるので、考え方ごとにまとめることもできる。一方、ホワイトボードの弱点「消えてしまうこと」は、写真として印刷し、ノートに貼ることで解決している。自分の考えをもつ良さを子ども一人ひとりが感じることが学びのプロセスの土台となる。



一人一台 iPad（教育アプリ：ロイロノート）の活用



子どもは、ホワイトボードに考え方をかいた後、自分の考え方を写真で撮り、ロイロノートで共有する。自分の考えと友だちの考えを選択して、比較する機能で、全体共有するまで、自分で考え方を「捉えなおし」できる場の設定となる。

また、思考方法を見通しで、色分けをしておくことで、子どもが選択しやすくなり、比較する手立てとなる。



全体共有の場では、自分の考えと友だちの考えを比較しながら発表することもできる。

ふりかえりの共有



毎時間の子ども
のふりかえりを
印刷し、次時の
導入で全員に配
布する。前時の

想起に活用するだけでなく、友だちがどのように学習をまとめたりふりかえったりしているのかを知ることで、自分自身のふりかえりを捉えなおす。さらに、単元末には、「自分のふりかえり」をふり返る場を設定し、学びの「捉えなおし」をすることができる。